

日刊 勤労千葉

84. 11. 9
No. 1788

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

「60・3ダイ改」の裏切り路線をしく 勤労「革マル」を追放・一掃しよう

十万人首切り！「分割・民営化」にむけた、すさまじい攻撃が吹き荒れている。とりわけ、勤労「本部」革マルが当局と一体となり、その先兵となって国鉄労働運動解体のり出ししている時、勤労千葉を先頭とした「三里塚を闘う労働運動」の全国的な飛躍的創造により、勤労「本部」革マルの追放・一掃と、当面する「60・3ダイ改」を中心とする首切り攻撃をはね返していかなければならない。

そのためにも、「11・10国鉄労働者集会」の圧倒的成功をかちとろうではないか。前号にひきつづき、勤労「本部」革マルの裏切りについて暴露・弾罪していくこととする。

「60・3提案を変更してはならない」と主張する勤労「本部」革マル

国鉄労働者の首を切る「三本柱」に屈服し、全面的に受け入れた勤労「本部」革マルは、自らの大裏切りを正当化し、さらに当局、マスコミ一体となつて「雇用安定協約を破棄された国労、勤労千葉の組合員は指名解雇される」なるキャンペーンによる組織攻撃を開始している。

こうした一連の事態は、「三本柱」にひきつづき、二五〇〇〇人の要員合理化攻撃である「60・3ダイ改」についても、率先して裏切り走ることは明らかだ。

そのことを示す具体的事実について紹介する。新幹線地大本支部情報『おゝい』（9・10付16132）は、新幹線地大本大会報告を載せているが、その中で「60・3ダイ改」にむけた執行部答弁として次のように述べている。

国鉄最後の合理化として政府・監理委員会からの攻撃としてある。提案を地方局で変更になると即、分割・民営化の材料になるのは明らかだ。したがって提案の変更はむずかしいと考える。

すなわち、「60・3ダイ改反対で闘ったりしたら分割・民営化を狙う当局の思うツボだから闘うべきではない。当局の提案をそのまま受け入れよう」と主張しているのだ。

次に、高崎地本委員長・革マル五味の発言を紹介しよう。

「東京や長野局に仕事をとられないよう効率化を高めよう」（高崎・五味）

高崎地本情報『動力車たかさき』（9・18付）は、高崎地本大会における委員長・革マル五味の総括答弁を載せているが、次のように述べている。

高崎における基地問題の現実には風前の灯だ。どれも安泰だという基地はない訳です。同時に効率化が求められてくる訳です。高崎より東京、長野局の方が秀れているとなれば、業務量が移項することになる。だから「60・3」は勤労提言を実現する取り組みをしよう。

つまり、「60・3ダイ改時に、東京や長野局より効率化を進めないと仕事をとられてしまうからもつと骨身を削って働かなければならない」と主張しているのである。

勤労「本部」革マルは、勤労組合員を犠牲にすることはおろか、すべての国鉄労働者を裏切つて生きのびようとしているのだ。

このような反動分子が存在している限り、国鉄労働者の前途は暗い。

「11・10国鉄労働者集会」の成功を突破口に、革マル反動分子に勝利する「三里塚を闘う国鉄労働運動」の飛躍的創造にむけ、奮闘しようではないか。（次号につづく）

よせよ！ 砕粉を攻撃破壊組織で団結な強固な家族・組合員全

全力で11・10国鉄労働者集会へ！

とき 11月10日（土）午後 五時三〇分
ところ 千葉市・千葉県教育会館大ホール
主催 国鉄千葉動力車労働組合

「分割・民営化」、10万人首切り反対！
「60・3」大合理化阻止！
反動・中曾根内閣打倒

内容
● 連帯のあいさつ
● 基調報告——勤労千葉
● 決意表明——各地方の国鉄労働者

